



酸性雨問題の研究と対策の推進のために

—『酸性雨特集』の企画にあたって—

全国公害研協議会長 水 見 康 二

昭 和40年代後半に人体被害を経験して以来、酸性雨はわが国の新たな地域環境汚染問題と認識され、多くの調査研究がわれわれの仲間により繰り返されてきた。

一方この問題は、欧米を中心に激化し地球規模の環境汚染問題として人々に注目されるにいたっているが、現象が複雑で多くの解決すべき課題を残していることはご案内のとおりであり、今後大気汚染や土壌汚染等との関係においてより深く論ぜねばならない興味ある研究対象ともいえよう。

さて昭和62年10月、大気汚染研究協会主催で第28回大気汚染学会が東京（日本青年館）で開催されたが、この中で全国公害研協議会は、「酸性雨及び光化学反応物質討論会」を学会と共催した。

本協議会を構成する試験研究機関の3人の世話人兼座長の努力、5人の講演者の講演と多くの参加者による熱心な討議によりこの討論会は成功裡に終了したが、これはこの問題が環境汚染問題として際立った特徴を有する課題だったからであろう。

こ の討論会はわが国における酸性雨の実態とその研究の現状と動向に関して広い学問的知見と国際的視野に立って討議された実りあるものだったが、特にその表題が示しているように酸性雨の実態ばかりでなく、大気汚染とのかかわり合いにおいて論じたことは注目してよいように思われる。

酸性雨に関する実態調査を主とする調査研究は、今や本協議会各支部における主要話題となってきているように考えられ、全国的な拡がりを見せ始め、その内容も拡大しつつある。

以上の状況を考慮し、上述の討論会における講演内容を紹介し、さらに関東及び中・四国の実態報告からなる本特集を企画した。

関係者の努力によりご覧のようなものになったが、本特集がこの問題に関する今後の研究の発展と対策推進に貢献するとともに、一人でも多くの方々がこの問題に注目してくださる契機となれば幸いと考えている。

「酸性雨及び光化学反応物質討論会」

- 世 話 人：東京都環境科学研究所 小 山 功
 （兼座長）兵庫県公害研究所 玉 置 元 則
 神奈川県公害センター 牧 野 宏
- 日 時：昭和62年10月26日
- テ ー マ：「酸性雨及び大気汚染物質の長距離輸送」